

平成二十八年度
都筑区少年野球連盟大会規定

第一版

都筑区少年野球連盟大会規定(1/2)

1 大会適用規定

最新版の公認野球規則、(財)全日本軟式野球連盟の競技者必携及び大会特別規則を適用する。

2 打順表の提出と攻守の決定

- (1) 試合開始時刻の30分前または前の試合の5回終了前までに、登録原簿の選手全てを記載した連盟指定の打順表3通(控え選手を含む全ての名に必ずふりがなを付すること)を本部に提出して、登録原簿との照合を受けた後に、球審立ち会いのもとに攻守を決定する。
監督が不在の時は、コーチ29又は28が代理監督として大会本部に報告する。
- (2) 登録参加者申込書提出後は、選手の変更、追加および背番号の変更は原則、認められない。
- (3) 試合中ベンチに入れる人員を次の通りとする。
代表者1名、監督1名、コーチ2名以内、スコアラー1名、マネージャ1名、選手10名以上20名以内
監督、コーチ以外は運動の出来る服装とし、ユニフォームは原則認めない。
熱中症対策としてスタッフ(2名以内)をベンチ入りを認める。
- (4) 遅れるか、10名人数が揃わないか、その他の理由で試合開始時刻になっても試合の出来る状態をとれないチームは、原則として棄権とみなす。
(注)前の試合が早目に終了した時、次の試合開始予定時刻前でも、試合を開始することがある。
- (5) ベンチは、抽選番号の若いチームを一塁側とする。

3 大会試合ルール&特別規則

- (1) 試合は7回戦とする。ただし、試合開始後1時間30分を経過した場合は正式試合となり、新しいイニングに入らない。トーナメント試合での同点の場合はタイブレークを行う。
- (2) 試合が7回を終了して同点時に、試合開始後1時間30分を経過していない時は、そのまま次のイニングに入ることとする。
- (3) タイブレーク
タイブレークに入る前の打順表で1番が三塁走者、2番が二塁走者、3番が一塁走者、4番を打者として1死満塁の状態にして行う。次のイニングの場合は前回の最終打者を一塁走者として、二塁、三塁の走者は順次前の打者として1死満塁で行う。
- (4) タイブレークの2イニング後も同点の場合は抽選により勝敗を決定する。
- (5) 降雨その他の理由による正式試合(コールドゲーム)となる回数は4回とする。
- (6) 得点差によるコールドゲームは3回以降10点差、5回以降7点差とする。
- (7) 特別継続試合
試合が1回以降4回以前に中止になった場合(ノーゲーム)、または4回を過ぎ正式試合となって同点の場合(タイゲーム)は再試合とする。
- (8) 塁間は23.00m、投手と本塁間は16.00mとする。
- (9) 監督(監督代行)に限り、グラウンドに出て指示などをすることが出来る。
- (10) 抗議できる者は、監督(監督代行)と当該プレイヤーとする。
- (11) 公認野球規則3・03「原注」の前段は採用しない。したがって、投手の守備位置の交代は自由である。公認野球規則8・02(a)投手の禁止事項の内「ボールに異物をつけること」「どんな方法でもボールに傷をつけること」だけを採用する。

4 用具・装具

- (1) 用具
(イ) 大会使用球は連盟公認のC号ボール(ケンコー)として試合前に各チーム2個用意する。
準決勝以降は大会本部で用意する。
(ロ) 同一チームの監督・コーチ及び選手は同色、同形、同意匠のユニフォーム、アンダーシャツ、ストッキング、アンダーストッキング、帽子、靴を着用する。
尚、エクストラパンツのユニフォームは使用を禁止する。
(ハ) 金属・ハイコン(複合)バットは、連盟公認(JSBB)のものに限る。
球場内に素振り用パイプ・リングを持ち込まないこと。

都筑区少年野球連盟大会規定(2/2)

(2) 装具

(イ) ヘルメット

① 打者・次打者、走者及びベースコーチは、両側にイヤーフラップ及び安全マーク(SG)のついた連盟公認(JSBB)のものを着用すること。

② 捕手は連盟公認(JSBB)安全マーク(SG)のついた捕手用ヘルメットを着用すること。

(ロ) マスクは連盟公認(JSBB)のものを使用すること。

(ハ) 捕手はレガース・プロテクター・ファールカップを着用すること。

ファールカップは攻守を決める際に、持参しチェックを受けること。

(ニ) スパイクは金具のついたものは使用できない

5 試合のスピード化に関する事項

- (1) 攻守交代は駆け足で行うこと。ボールは投手板近くに置いて交代すること。
第3アウトが成立したら、守備側の選手は素早くベンチを離れ、守備位置に向かうこと。
特に、バッテリーは準備投球があるため率先してベンチから出ること。
- (2) 各回の先頭打者と次打者およびベースコーチはミーティングに参加しないで直に所定の位置につくこと。
- (3) 捕手は、投球は受けたらその場から投手に返球すること。
- (4) 投手は捕手の返球を受けたら、直ちに投手板について投球姿勢をとること。
- (5) 打者は打席内入りサインを見たら速やかに打撃姿勢をとること。
- (6) 次打者は、次打者席で低い姿勢で待機すること。投手も必ず実行すること。
- (7) 走者が負傷などで治療が長引く場合は、相手チームに伝え、試合に出ている9人の中から、臨時の代走を認めて試合を進行させる。代走は打順の前位の者とし、投手はのぞいてもよい。

6 その他

- (1) ファールボールは、一塁側のものは一塁ベンチ。三塁側のものは三塁側ベンチ、本塁後方のものは攻撃側で処理すること。
- (2) 試合に勝ったチームは、自主的にグラウンド整備を手伝うこと。
- (3) 球場関係者と無用なトラブルを起こさないよう関係者の指示に従い言動に注意すること。
- (4) 監督は主将会議決められた事項をチーム全員に徹底させること。
- (5) 球場内ではトスバッティングもフリーバッティングも禁止とする。
- (6) 試合開始、終了の挨拶時には代表者・監督・コーチ・スコアラー・マネージャも自軍ベンチ前に整列して併せて挨拶すること。

7 リーグ戦

- (1) 以下の基準で順位を決め決勝トーナメント進出チームを決める。
- (2) 順位の設定は全ての対戦の終了を待って行う。
順位 ① 勝ち点制とする。勝ち3点 引分けは1点。
 ② 勝ち点の多いチームから決勝トーナメントに進む
 ③ 勝ち点と同じ場合
 1. 当該チームの勝敗、2. 失点が少ないチームを上位とする。
 それでも同じ場合は抽選とする。
- (3) 試合は大会運営及び試合ルールに準じ、延長の場合は、規定時間内であれば延長戦を行うが、時間外であれば引分けとする。

都筑区少年野球連盟大会 教育リーグ規定

- 登録
- (1) 複数登録チームの二重登録、入れ替えは禁止とする。
 - (2) 背番号は0番より30番とし、主将10番、監督30番、コーチ、29番・28番とする。
- 試合ルール
- (1) 6回戦とする。
 - (2) 塁間は21.00m、投手と本塁間は14.00mとする。
 - (3) 試合時間は75分を過ぎたら新しいイニングに入らない。
 - (4) リーグ戦はコールドなし。
(但し、75分経過した時点で、前のイニング終了時の点差が
3回10点、5回7点以上ある時は試合を終了させる。)
 - (5) リーグ戦は3アウト、又は打者9人交代制とする。
 - (6) 決勝トーナメントからは6回、75分、3アウトチェンジ、コールドありとする。
- その他
- (1) その他の規定は「都筑区少年野球連盟大会規定」に準ずる。

都筑区少年野球連盟大会 ティーボール規定

- 登録 (1) 複数登録チームの二重登録、入れ替えは禁止とする。
(2) 背番号は0番より30番とし、主将10番、監督30番、コーチ、29番・28番とする。
- 用具 (1) 72cm以内の長さのバットを使用する。
(2) 試合球はZETT製とする。
(3) 高さ調整できるゴム製ティースタンドを使用する。
(4) 捕手、打者、走者、ベースコーチはヘルメットを着用すること。
- 服装 (1) ユニホームの着用を原則とするが、運動できる服装での出場も認める。
但し、背番号は付けること。
- グラウンド (1) 塁間は、18.33mとする。
(2) 12.3mにピッチャーサークル(半径2m)を引く。
(3) 本塁から4.5mにファールラインを引く。
(4) 42mにホームラン・ラインを引く
- 試合ルール (1) 5回戦とする。(コールドなし)
(2) 試合時間は30分(30分を超えて新しいイニングに入らない)
(3) 3アウト、又は打者9人で攻守交代する。
(4) 打者、守備要員は9人とする。(1度ベンチに下がった選手の再出場はできない。)
(5) ファールラインの内側でボールが止まった時はファールとする。
(6) ホームラン・ラインをノーバウンドで越えた場合はホームランとする。
(7) ゴロ(野手に当たった場合も含む)でホームラン・ラインを越えた場合、テイク2とする。
(8) (走者の進塁を阻止する意思なく)投手、又は野手がボールを持ってサークル内に入った時、或いは捕球、グラブ・身体の一部にボールがサークル内で触れた場合、ボールデッドとする。
(9) ボールデッドの時点でランナーが次塁に達しない場合は前の塁に戻る。
(10) 2ストライク後のファール、空振りアウトとする。
(11) 打者はフルスイングすること。バント、ハーフスイングはファールとする。
(12) 打者の軸足(右打者の場合は右足)を移動させないこと。
(守備を幻惑させる行為はしないこと。)
(13) ボールの一部を打って4.5mラインを超えた場合はフェアアとする。
(14) ボールに当たらずティースタンドを打ってラインを超えた場合はファールとする。
(15) 打者がボールを打つまでランナーは離塁できない。(タッチアップは認められる。)
(16) 守備側の監督・コーチ(二名まで)はフィールド内(外野)での指導を認める。
(17) 攻撃側の監督・コーチはコーチャーボックス内での指導を認める。
(18) 打者の指導も可とする。但し、いずれの場合もインプレー中に選手に触れてはならない。
(19) 危険防止対策が必要と審判が判断した場合はその指示に従うこと。
- 危険防止 (1) 打った後にバットを投げない指導を選手に徹底すること。
(2) 原則として一塁はダブルベースを使用する。
(3) ホームより2.5m後方の位置に左右の捕手ラインを引く。
(4) 12.3mに半円を引き、野手はライン内で守備をさせない。
(5) 決勝トーナメントではバット(72cm以内)は連盟で用意する。
各チームは大会当日持参しないこと。
(6) グラウンド、及び周辺での素振り、バットを使っのノックは禁止する。
- その他 (1) その他の規定は「都筑区少年野球連盟大会規定」に準ずる。
(2) その他運営に関して疑義が生じた場合は、大会の理念に基づいて判断する。

都筑区少年野球連盟大会に関する注意事項

- (1) 選手
 - ・グローブからの指出しを禁止する。
 - ・投球練習の時、捕手はマスク・ヘルメット・プロテクター・レガース・ファールカップを着用すること。
 - ・投手は手首へのサポーター、リストバンドの使用を禁止する。
負傷により包帯等が必要なときは、球審及び本部の承認を得ること。
 - ・ベンチ前にグローブ、バット、ヘルメット等の用具を置かないこと。
 - ・次の試合の投球練習は、5回以降又は試合終了予定30分前からとする。
バッテリーは一組として危険防止の為、指導者を1名配置すること。
 - ・打者は投球練習中はネクストバッターボックスで待機すること。
 - ・打者走者の一塁へのヘッドスライディングは禁止する。
 - ・サングラスの使用を禁止する。必要な選手・監督・コーチは大会本部の了解を得ること。
- (2) 指導者(含むスタッフ)
 - ・監督、コーチ以外もチーム帽を着用し、スポーツの出来る服装とすること。
半ズボン、スカート、革靴、サングラス等は認めない。タオル等首に掛けないこと。
 - ・グラウンド周辺での練習(ランニング等)を行う場合、周辺住民や他の競技の邪魔にならないよう充分配慮し、無用なトラブルを避けること。
 - ・球場外でのバットの使用(選手も含む)を禁止する。
 - ・監督、コーチのユニフォーム、ストッキング、アンダーストッキング、靴は選手と同一、同スタイルとすること。
 - ・指導者等は、試合中グラウンド外に出た場合は再入場を認めない。
 - ・監督が不在の時は、代理監督(コーチ29、28の順)が大会本部に報告する。
 - ・選手に対して罵声を浴びせない。
 - ・相手選手のプレーを惑わす言動は禁止する。
- (3) 応援者のマナーについて
 - ・投手が投球動作に入ったら、応援はやめること
 - ・自チーム及び相手チームの選手に対する野次は行わない、当事者と監督を退場させることがある。
 - ・審判員に対する野次、ブーイングは行わないこと
 - ・ゴミは持ち帰ること。

 - ・シートノックは原則として午前中の第一試合のみ5分間行う。
 - ・内・外野2か所でのノックを認める。内野手を超えてのノックは行わないこと。
 - ・内・外野共に補助員はヘルメットを着用すること。
(シートノックの時間が短いので指示に従い速やかに行うこと)
 - ・試合前、練習時のノックを認める。(但し、2面試合会場は第一試合のみ認める)
 - ・試合前、外野での素振りを認める。
安全には十二分に配慮し必ず指導者の監視下にて行うこと。
(選手はファールラインに添って十分間隔を空け、整列して行うこと)
但し、大会本部の判断によっては禁止する場合がある。
 - ・メガホンの使用はチーム1個とする。

2014年度野球規則改訂に伴い大会規定の改正について

- (1) 三塁への偽投は一塁への偽投と同様に禁止となりました。
- (2) 監督またはコーチが投手の所へは1試合に三度以内にする。
捕手を含む内野手が投手の所へ行けるのも三度以内とする。
尚、タイブレークとなった場合は2イングに一度行くことが出来る。
- (3) 攻撃側のタイムは1試合に三度以内とする。
尚、タイブレークとなった場合は2イングに一度とする。
- (4) 投手の投球制限については肘、肩の傷害防止を考慮し、一日7イングまでとする。
但し、特別延長戦に限り2イングは認める。

グラウンド利用に関する注意事項

グラウンド利用ルールに違反した場合、グラウンドが利用できなくなることがありますので、チームの指導者は下記事項をチーム内に徹底してください。

※選手・コーチのみならず、保護者、応援の方へも徹底してください。

□ 共通利用ルール

- (1) 配車台数は、前後審、応援車両を含め1チーム4台までとします。
- (2) 駐車場のない会場では、運営部及び会場管理チームの指示に従ってください。
- (3) 路上駐車は厳禁です。必ず近隣の有料駐車場を利用してください。
※特に選手の家族・親族に徹底してください。
- (4) 喫煙は所定場所で行ってください。
- (5) ゴミは必ず持ち帰ってください。
- (6) 最後の試合のチームは、両チームにてグラウンド整備を行ってください。
- (7) 路上駐車、喫煙等の監視のため、次のグラウンドは各チームから監視員1名派遣してください。

□ 都田公園（地下に横浜市民の飲料水が貯蔵されています。）

- (1) 公園内は禁煙です。（上記の喫煙場所を除く。）
喫煙場所は、灰皿が設置されている管理事務所前、トイレ前に限定されています。
（管理事務所内は禁煙です。）
- (2) グラウンドのフェンスを越えてボールを取りに行かないこと。
（フェンスを越えると進入禁止センサーが作動し
市水道局の緊急出動体制が取られます。）
- (3) グラウンド内に食物の持込みはできません。（食事は中央広場の中央付近でとること。）
- (4) グラウンド外（休憩所・道路）でのキャッチボールは禁止です。
- (5) 幼児の立ち小用も厳禁です。ペットの入園はできません。
- (6) 必ず駐車場に入り、満車の場合も周辺に路上駐車しないでください。
- (7) 使用後はグラウンド全面をトンボ、ブラシで地均ししてください。
- (8) トンボ等の使用用具・備品は所定場所に収納し、ブラシについた土は落とすこと。
- (9) ベース、プレート、ラインカー等の連盟の用具を都田公園倉庫に入れしないでください。

□ 荏田西グラウンドA面（北東側）

- (1) B面側の入り口からの車両、および出入りはできません。
- (2) 外野芝生に入らないよう、グラウンド端をゆっくり走行してください。
- (3) 道路に駐車しないようにしてください。
- (4) グラウンドでの小用は禁止です。青葉郵便局向いの公園トイレを利用してください。

□ 東山田公園

- (1) 駐車場に駐車できるのは各チームの義務審判用（1台）、及び運営審判部用とします。
- (2) 各チームの選手、スタッフはピストンで輸送すること。
- (3) 周辺の道路は駐車禁止です。決して路上駐車しないようにしてください。
（直ぐ警察がきますので、そのようなことがあるとグラウンドが使用できなくなります。）
- (4) 隣接する公園での、キャッチボール、素振りなどアップは禁止です。
- (5) グラウンドの周りに、歩道になってところは歩行者優先です。
- (6) 歩行喫煙、タバコのポイ捨ては厳禁です。
- (7) ゴミは必ず持ち帰ってください。